

令和2年3月31日 落手
上竹原区 山口喜三郎 氏 手紙 (その2)
(当時の年齢21歳)

ところが、これも後から知ったことであるが、このとき同じ地区内で大悲劇が発生していたのである。巨大なダム湖の一角が決壊して一気に流れ出した大濁流が我が家の50メートル下流あたりを直撃していたのである。中崎さん宅(当時の小浜市長)を含む約50ないし100メートル幅の関区の家々を押し流していたのである。

我が家は茅葺の家屋であったが、上手(かみて)の吉田さんの庭に大きな杏の木が生えていた。そこに上流からの流木や藁ごみが引っかけ山のような城壁ができていた。茅葺の我が家は正にその城壁に守られていたのである。父はしみじみ「家の周りには立ち木(生き木)が大事だ。」と言っていた。その後住居を建替えるとき、父は上手に杉の木を植えることにした。

明るく朝、がさくたに壊れた階段を伝って下へ降りると、そこらの景色は惨憺たる有様で、家の中はがらんどう、前の道路はまだ濁流が1メートルはあったろう。救援ボートが毛布に包んだ人を乗せてやってきた。山口実君のお母さんとお姉さんであった。声も出さず見送った。一晩中水に浸かったままで家に閉じ込められていたとのことだった。

屋頃になって道路面が見え始めた。我が家の前辺りがまず現れ、楯尾さんの前の路面が現れというように区内の水がだんだん引いていった。ところがその道路上に大きな牛の屍骸が横たわっていたのである。我が家の牛は親戚に預けてあったので助かったが、中には濁流を泳ぎ切ったのか、小浜湾の対岸で見つかったという牛もいた。(新畑さんの牛だとのことだった。)

翌日からは汚泥との戦いであった。家の中は泥だらけ、土間や床には泥が敷き詰められ、天井裏まで泥が層を成していた。親戚の人達が毎日来てくれて、泥を運び出し洗い出してくれた。子どもも大人もなかった。みんなが泥出しだった。泥水に浸かった米は何べん洗っても、炊き上げると「黄変米」だった。

後日談になるが、小生は関西電力の勤めに復した。関西電力では今でいうライフラインの確保(電気を早く復旧すること)が緊急の大使命であった。配電工事業務に従事する人達は日夜大奮闘していた。小生は復旧資材を調達する後方支援部門に属していた。小浜港に陸揚げされる電線や変圧器などをオート三輪車(当時は軽トラのような車種はなく、四輪貨物自動車も限られていた)でピストン輸送して早期復旧をバックアップした次第である。

南川と北川の2大河川に挟まれ更に多田川が流れ込む竹原、府中、和久里、今富一帯に住む者の宿命として、今後ともこの「自然の猛威」とどう付き合っていくか、どう対処していくか、行政当事者とどう連携していくか、真剣に取り組まなければならない課題だと思う。

素人ながら当面の対策として考え付くのは、南川・北川河川敷の中州、樹木の除去である。自然保護の立場から鳥の営巣地とか魚の産卵場所を守るという反論があると聞いてはいるが、住民の生命財産を守ることとの軽重を判断基準にするべきだと考えるものである。川床を低くし川水の流れをスムーズにし、堤防や橋梁に掛かる負荷を軽減することが大切ではないかと思う。

さらに万が一南川・北川が破堤氾濫した場合、南川と北川との最狭隘部分すなわち城内橋付近が最大のネックになる懸念(多田川の流れを阻害し、大ダム湖が再現すること)である。「大手橋・西津橋の改修工事」にあわせて、多田川改修(川幅拡張・小浜湾直流にしたこと)の実効を高めるため、竹原・今富地区一帯の者は最大の関心を示すべきであると思うものである。



お詫びと訂正

～昭和28年台風13号 体験談 NO3 (その1)～

15行目 … 相談があったが→しあったが • 29行目 … 二階が浸水しに→水浸しに
33行目 … 引いてきた」と呼ぶ→叫ぶ • 37行目 … 北川左岸堤防を→と南川右岸堤防とを

《 公民館運営審議委員会 》

- ★委員長 岩田拓美 (南川町)
- ★委員 鋸屋 智 (南川町)
- 香川 昇 (城内一)
- 中西 悟 (城内一)
- 入江深砂 (千種一)
- 岡本陽子 (水取三)
- 岩谷富士代(雲浜一)

《 雲浜地区 各種団体長 》

- コミュニティ協議会会長 岡本 英司(雲浜一)
- まちづくり委員会委員長 片山 進一(山手一)
- 体育協会会長 中西 悟(城内一)
- 老人クラブ連合会会長 芝田 友貞(上竹原)
- 子ども会育成協議会会長 古川 邦夫(城内一)
- 子供を交通事故から守る会会長 中村 吉宏(山手三)



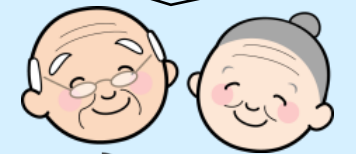
敬老

6月14日(日)「雲浜地区敬老会」を開催し、多くの敬老会対象の方々にお祝い申し上げますところですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止と皆様方の健康・安全を考慮し中止とさせていただきます。

本年は、ささやかではございますが、対象者の方に、心ばかりの記念品をお送りし、お祝いに代えさせていただきます。



- ・お 酒…百伝う(地酒 300ml)
- ・サバ缶…醤油・味噌 2個
- ・ラベル…雲浜地区オリジナルラベル
地酒と鯖缶で家呑みだね～



敬老対象者

- ・上竹原 21名 ・関 13名 ・南川町 52名 ・後瀬町 62名 ・大手町 29名
- ・四谷町 49名 ・千種一 41名 ・千種二 61名 ・一番町 28名 ・城内一 28名
- ・城内二 39名 ・雲浜一 62名 ・雲浜二 31名 ・山手一 38名 ・山手二 89名
- ・山手三 48名 ・水取一、二 67名 ・水取三、四 63名 合計 821名

《 寄せ植え教室 》

お花が好きなのは女性だけ? 土いじりは男性の仕事? みんなで男女共同参画について「寄せ植え教室」を体験しながら考えていきましょう。

- ・日 時 : 7月11日(土) 午前9時30分～
- ・講 師 : 松川知香子 先生
- ・場 所 : 雲浜公民館 駐車場
- ・参加費 : 無 料 先着 15名
- ・申込み : 雲浜公民館 (52-9080)
- ・締 切 : 7月7日(火) まで

＜主 催＞ 雲浜公民館 ・ 小浜市男女共同参画地区推進員

夏を迎える素敵な寄せ植えを作って、生活も明るくしましょう